

秋晴れが続いた一週間。27日(火)に「長瀬たてわりリンピック」が行われた。子供たちのアンケートで一番やりたかったことが「運動会」だったことから、児童会が企画・運営を担う(例年だと「子ども祭り」を実施していた)ことになった。

各学年3分半のダンスや「はねこ踊り」は、ただただ驚くばかりであった。体育の授業でも少し練習したようだが、給食中に電子黒板にYouTubeのダンスビデオを流したり、休み時間に友達同士で動きを合わせたりしたようだ。ダンスと言えばフォークダンスくらいしか思い浮かばない私にとっては、子供たちの動きは「異次元の動き」である。また、ダンスは「女子がやるもの」という古い認識が吹っ飛んだ。男子児童もいきいきとパフォーマンスする姿には、新しい表現活動の広がりを感じすら覚えた。

たてわり班での玉入れや障害物競走もみんな楽しくできたようで、運営に当たった高学年児童に感謝したい。簡単な並び方等を全校で1時間ほどとって打ち合わせしただけで、総練習も何もしなかったので、当日に少し戸惑った場面もあったようだが、教師は安全面以外には手を掛けないので、子供たちが自分たちで考えて対応した姿は頼もしかった。

多くの保護者、ご家族の皆様「WITH コロナ」の中でも、元気に活動する子供たちの様子をご覧いただけて本当によかった。

6月の学校再開以来、139人の子供たち全員があんなに跳ね回る姿を見て、少しウルッ(涙)としたのは私だけだろうか？